



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 ㊟秘書課 ☎ 36-7117

今月のテーマ 子育て世代に選ばれるまち島田を目指して

～上の子が何歳でも保育料は2人目半額 3人目以降無償化を実現～

去る5月29日より二期目の任期がスタートしました。引き続き、島田市のために尽力できることを大変誇りに思うと同時に、改めてその責任の重さを痛感し、市民の皆様からの期待と信頼に応えられるよう、全力を傾ける所存でございます。「市政羅針盤」も継続しますので、ご愛読のほどよろしくお願ひいたします。

さて、いま我々が抱える最大の課題は「人口減少」です。長い歴史の中でも経験したことがないような急激な人口減少、少子・超高齢社会という大きな課題に直面し、これにどのように歯止めをかけ克服していくのか、地方創生の名の下で各自治体の力が試されています。

市でも、2060年に8万人の目標人口を掲げ「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、子ども・子育て施策や移住・定住、シティプロモーションなど、多層的で広範囲におよぶ魅力あふれる事業を展開してきました。

この成果が、昨年度の人口の社会動態（転入者数と転出者数の差）に結びつき、平成18年度以降転出超過だった数 市の移住定住サイト「住んでしまだ」値が、11年ぶりに「プラス75人」に転じました。さらに、県内第2位の移住者数を数えたことは、当市の総合力が



発揮された結果であると考えます。



しかし、これに満足して歩みを止めてしまうわけにはいきません。さらなる人口減少対策として、笑顔が咲くかわね保育園のプール開き本年9月から、保育料の「2人目半額、3人目以降無償化」を実現いたします。上の子どもの年齢や世帯の所得による制限は、設けません。

子育て世代の負担軽減による合計特殊出生率の上昇や定住促進、さらには市外からの子育て世代の転入増加を図ることを目的とし、若い世代に配慮した優しい施策として、島田市が誇る既存の優れた子育て施策との相乗効果を高めていきたいと考えております。

なお、実施期間については、第二次島田市総合計画前期基本計画の期間に合わせることで、終了年度の平成33年度までに、出生数やそれに対する第2子・第3子の割合、さらには子育て世代の転入・転出者数などの実績から効果を検証し、継続について判断する予定です。

保育園の待機児童対策については、本年10月に、0～2歳児定員60人（総定員72人）の「島田ゆりかご保育所」が向谷に開園を予定し、市内3幼稚園も来年4月の認定こども園化を目指して、施設整備を進めています。これらの整備により定員は現在より266人拡大され、来春には、待機児童問題は解消できると見込んでいます。

みんなのひろば

皆さんから寄せられた地域の「ニュース」「イベント」「声」などを紹介します。

五和地区のいきいきクラブに加入している私たち有志9人は、「チームおもしろ五和駅」と協力して、同駅舎内を紫陽花（アジサイ）で飾り付けました。

地元の皆さんが提供してくれた色とりどりのアジサイを、同じく地元で伐採された竹材を使って、門松風にアレンジ。壁面の掲示板には、近隣のアジサイ名所の案内や、アジサイにまつわる名句を貼って紹介しています。また、自作俳句コーナーには短冊を置き、利用客が自分の作品を紹介で

きるようにしました。

アジサイ展は、花が咲く6月末まで。7月には、地元小学生と七夕飾りに挑戦する予定です。今後も、駅を訪れた皆さんが元気になるような活動を、続けていけたらと思います。（有志代表 鈴木かねさん）

